

# 多様なニーズに挑む 岡山協立病院の真価

岡山医療生活協同組合（岡山医療生協）は、岡山市を中心とする地域で医療・介護事業を展開しています。地域には高度急性期医療を担う病院が集まる一方、孤立や経済困難を抱える高齢者、多疾患併存患者が増加しているのが現状です。岡山医療生協は「お金のあるなしに関係なく安心してかかれる医療機関をつくる」という1952年の設立理念を継承し、住民・職員が出資者であるユニークな組織として、健康づくりとまちづくりを両輪で進めています。

地域には3人以上の組合員で



たかはし・じゅん 旭川医科大学卒。1984年、岡山協立病院に入職。神戸市立中央市民病院循環器センター、津山医療生協平福診療所所長を経て、2012年に岡山協立病院院長に就任。今年7月から現職。臨床研修指導医、総合内科専門医、認定内科学会医、循環器専門医、日本医療福祉生活協同連合会会長理事。

## ④ 病気だけじゃない、「暮らしも診る」

### 岡山医療生協の使命

岡山医療生活協同組合理事長

高橋 淳

構成される「班」が662あり、血圧測定や健康学習、趣味活動を通して地域交流を進めています。そして、各中学校区に置かれた46カ所の「支部」では健康まつり、地元スーパーの店頭などでの青空健康チェック、町内会と連携した子ども食堂や健康相談などを実施しています。写真上。困ったとき、助けがほしいとき、たよりになる、暮らしとこのちを支える存在であり続

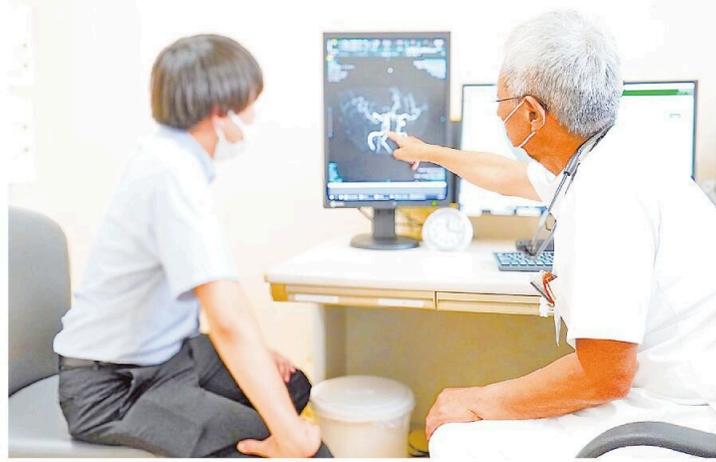
けることを目指しています。未来を見据えた、地域密着型多機能病院としての役割 私たちは総合病院岡山協立病院と岡山中央病院の2病院と三つの診療所を中心に、急性期から回復期、在宅まで切れ目のない医療を提供しています。写真下。協立病院では一般急性期病棟を地域包括医療病棟へ転換し、肺炎や尿路感染などよくある疾患の患者さんに、リハビリや栄養管

理、退院支援を含む包括的ケアを提供しています。市内急性期病院からの転院も積極的を受け入れ、複雑困難な事例を断らないことで信頼を得ています。さらに、歯科と連携した口腔ケアや、介護者が休むための短期入院（レスパイト入院）も受け入れています。また紹介状なしで受診した時や救急外来で支払う選定療養費や差額ベッド料をいただいでいま

せん。これは「お金の有無で医療に差別があってはならない」という理念を体現しています。健康の社会的決定要因への挑戦 近年、健康は生活習慣だけでなく所得、教育、居住環境など社会的要因に左右されることが明らかになっています。岡山医療生協では2024年の記録的猛暑時、冷房がないために熱中症で入院した住民の存在を把握し、岡山市へ独自助成を求める

お願いを提出しました。また、病院なんでも相談窓口では医療費や福祉制度に関する相談を毎月300件近く受け付け、グラフ、無料低額診療事業で経済困難者への医療アクセスを保障しています。診療報酬の制限や物価高騰など厳しい経営環境の中でも、「誰もが健康で文化的な生活を営む権利を守る」という理念をもとに、地域とともに歩む医療福祉を実践しています。

◇ 岡山協立病院（086-272-2121）。連載は今回で終わります。



なんでも相談：2024年度

2025年2月までの実績

